

Z117a IAU 決議以前における中学理科教科書中の惑星の定義の扱いについて

大島誠人（国立天文台）

2006年にIAUによって太陽系の惑星の定義が明確化されたが、それ以前は惑星の定義は慣習的なものに基づいており明確な定義は存在していなかった。そのような時期に、惑星という言葉の示すものがどのようにして学校現場で教えられてきたかを明らかにするため、日本国内で1947年以降に発行された中学校の理科教科書において、惑星という言葉がどのような定義に基づいて説明されているのか、調査を行った。

その結果、2006年に行われたIAUの決議により太陽系の惑星の定義が明確になった以降はその定義を中学生向けにわかりやすく翻案した表現が多く用いられている一方で、惑星とそれ以外の太陽公転天体の違いの定義がはっきりしていなかったそれ以前の時期に発行された教科書では太陽をめぐる天体として説明しているものと恒星の間を動いて見える天体として説明しているものがあることが明らかになった。

この2種類の説明は時期によってどちらが優勢かどうかは異なり、後者の説明は戦後すぐと70年代～80年代に多く見られることが明らかになった。このように70年代以降に後者の説明が優勢となった理由としては、教育の現代化に伴い「観察に基づいた探究学習を通じて概念や知識を身につけていく学び方」が学習指導要領を通して推奨されるようになったことが考えられる。